

## D 7

## 動作にともなうタイトスカートのシルエットの変化（第二報）

—— 後面・側面からみた後中心縫目線の連続的变化 ——

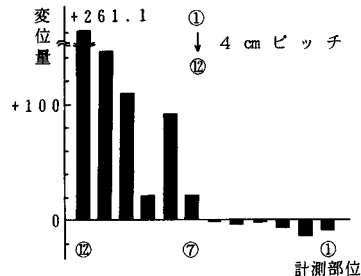
実践女大家政 松岡久美子 ○安藤真奈美 平岡和香子

（目的）動作に適合した運動量設定の基礎資料として、第一報ではタイトスカート（スリットなし）の動作によるシルエットの連続的变化を定量的に検討した。スリットは後中心縫目線に入れるのが一般的であるため、第二報では後面全体および後中心縫目線の動作にともなう連続的变化の定量的検討について、また動作の限界点における後中心縫目線の変位と第一報の側面視結果との関係について検討した。

（方法）被験者、実験衣、計測方法は第一報と同様である。計測動作は歩行・ステップの2動作とした。後中心縫目線上の裾から4 cmピッチで12ヶ所の計測点を取り、動作による変化を後面及び側面から計測した。また、第一報と同様、各水平位の変化も計測した。

計測点の軌跡・水平・垂直方向の変化量、スティックピクチャーから、スリットをいれないタイトスカートの動作による後面の連続的变化と動作の限界点に至るまでの後中心縫目線の変位の定量的把握を行った。

（結果）1図にステップの後中心縫目線の計測点の軌跡の変化量を示した。変化量は⑦を境に異なった傾向を示す。⑦～⑫は変化量、バラツキが小で、⑨では $\bar{x} - 2 \text{ mm}$ 、 $\delta 9 \text{ mm}$ であった。①～⑥は反対にバラツキが大で①の $\delta$ は123 mmを示し、スカートと人体の空隙の大きい部位の動きはばらつくことが認められた。



1図 後中心縫目線の変化量